

セントレアエコエアポート推進協議会とは

セントレアでは、多くの事業者・行政機関が空港の運営に携わっています。
 エコエアポート推進協議会は、空港内の主要な関係者が、空港全体の環境への取組について、一体となって推進していくことを目的に設立されました。
 推進協議会はメンバー同士が連携し、空港全体という視点で実効ある環境活動を進めています。

◇協議会メンバー一覧(順不同)

セントレアAOC 日本航空(株)中部空港支店 全日本空輸(株)中部空港支店 スカイマーク(株) 中部スカイサポート(株) ANA中部空港(株) スカイポートサービス(株) スイスポートジャパン(株) 名古屋国際貨物協議会 名古屋鉄道(株)中部国際空港駅 中部国際空港バスターミナル運営協議会 中部国際空港構内タクシー営業会 セントレアGSEサービス(株) 名古屋エアケータリング(株) (株)エージーピー 中部空港支店 サンエイ(株) 空港サービス課 (株)東海ダイケンビルサービス 星光ビル管理(株) 東海営業第一部 中部国際空港セントレアホテル 中部国際空港センター連絡協議会	国土交通省 大阪航空局 中部空港事務所 国土交通省 航空局 飛行検査センター 財務省 名古屋税関 中部空港税関支署 法務省 名古屋出入国在留管理局 中部空港支局 厚生労働省 名古屋検疫所 中部空港検疫所支所 農林水産省 名古屋植物防疫所 中部空港支所 農林水産省 動物検疫所 中部空港支所 気象庁 中部航空地方气象台 海上保安庁 中部空港海上保安航空基地 愛知県警察本部 中部空港警察署 常滑市 消防本部消防署 空港出張所 セントレアグループ(6社)
---	--



セントレア エコ エアポート推進協議会

環境パフォーマンスデータ

項目	2018年度		2019年度	
	原単位(※2)	総量	原単位(※2)	総量
1.温室効果ガス(CO2)(※1)	発着回数1回あたり 1.79 t-CO2/回	184 千t-CO2	発着回数1回あたり 1.74 t-CO2/回	195 千t-CO2
2.エネルギー(電気,熱等)	来港者1人あたり 79 MJ/人	1,070 千GJ	来港者1人あたり 74 MJ/人	1,097 千GJ
3.上水	来港者1人あたり 27.1 リットル/人	367 千m ³	来港者1人あたり 24.9 リットル/人	368 千m ³
4.一般廃棄物	来港者1人あたり 0.29 kg/人	3,917 t	来港者1人あたり 0.27 kg/人	4,024 t
リサイクル率	32.9%	-	30.0%	-

※1 航空機:着陸前3,000ftから離陸後3,000ftを空港排出分とみなして算定。
 ※2 “/回”は発着回数1回あたり、“/人”は来港者1人あたり。

記載内容に関するお問い合わせ先
 セントレアエコエアポート推進協議会事務局
 中部国際空港株式会社
 地域共生部 事業調整グループ
 TEL:0569-38-7838
 URL:<http://www.centrair.jp/torikumi/environment/>



セントレア環境行動指針2020



セントレアエコエアポート推進協議会

セントレア環境行動指針とは

中部国際空港(セントレア)は2005年2月に愛知県常滑沖合の海上に開港した国際空港で、その構想・建設段階から、空港島の形に丸みを持たせる等の工夫や、エネルギーセンター・太陽光発電パネルの設置など「環境の世紀」と言われる21世紀の空港として環境に配慮を行ってまいりました。空港の運営を担っている事業者・行政機関は、開港からこれまで各自の立場で環境に取り組んでまいりましたが、環境に配慮した空港をより一層進化させていくためには「目指すべき方向性を明確にし、一体となって行動(アクション)を起こすことが重要」との認識から、開港5周年の節目にあたり、セントレアエコエアポート推進協議会として一同に会しセントレア環境行動指針を策定し、毎年見直しを行っております。セントレアは、全ての協議会メンバーが一体となって環境保全活動を行い「持続可能な空港(Sustainable Airport)」を目指します。

セントレアにおけるこれまでの環境への取組例



海域環境への配慮(島の形を曲線に) エネルギーセンター(コージェネレーション) 太陽光発電パネル
 旅客ターミナルビルPTB(自然採光・屋内緑化・グリーンカーテン) ハイドラント方式の給油システムにより給油タンク車の燃料・排気ガスを削減
 地上動力装置(GPU) 燃料電池(FC)フォークリフト用水素充填所

セントレアが取組むべき環境行動指針

環境行動指針	主な環境行動			
	項目	内容		
1. 地域環境を大切に空港運用を推進します。 地域の熱い思いにより生まれたセントレアは、地域を大切にすることを観点から、地域環境に与える影響を軽減する空港運用を推進します。	航空機騒音の低減	飛行経路の遵守、低騒音型機材の導入、航空機騒音の監視		
	航空機の運航による電波障害への対応	原因調査・改善対策		
	大気汚染物質の排出量削減	航空機	低排出型機材の導入、ショートプッシュバック方式※1の推進、地上動力装置(GPU)※2の利用促進	
		自動車	ハイドラント方式による給油システム、GSE車両※3・連絡車両等のエコカー(低排出車)への転換、グリーン配送の呼びかけ、アイドリングストップ運動、CNGスタンド、PHV(プラグインハイブリッド)・EV車用充電施設の整備	
生物多様性の保全	海域生物の生育に適した緩傾斜捨石式護岸・岩礁性藻場の造成、屋内緑化(PTB)、屋外緑化(セントレアガーデン)			
2. 地球環境への負荷軽減に努めます。 空港運用が少なからず温室効果ガス等の地球環境に負荷を与えていることから、地球環境への負荷軽減する行動を推進します。	運用における省エネの推進	航空機	搭載物(コンテナ、食器等)の軽量化、機内の省エネ(日よけを下ろす活動等)、ショートプッシュバック方式※1の推進、RNAV(広域航法)※4の導入推進	
		空港施設	コージェネレーションシステムによる効率的なエネルギー供給、地域冷暖房システムの導入、LED照明の導入 旅客ターミナルビル等の施設集中管理センターによる省エネ(運航状況に応じた空調等)	
		オフィス	照明のこまめなon/off、クールビズ・ウオームビズの実施、階段利用、エコ通勤の推進	
	温室効果ガス排出量の削減	省エネ以外の取組	航空機	低燃費型機材の導入、地上動力装置(GPU)※2の利用促進
			自動車	ハイドラント方式による給油システム、GSE車両※3・連絡車両等のエコカー(低燃費車、FCV、EV、CNG等)への転換、グリーン配送の呼びかけ アイドリングストップ運動、CNGスタンド、PHV(プラグインハイブリッド)・EV車用充電施設の整備、エコ物流(中部の貨物は中部から)の推進、エコカーでの来港促進
			鉄道	省電力車両の導入推進
新エネの積極的導入	新エネ(太陽光発電等)の拡大、商用水素ステーション稼働、FCフォークリフト用水素充填所稼働、FCバスの稼働、実証実験の場の提供			
生物多様性の保全	セントレア発エコツアーの実施による啓発、国内外の植樹活動等			
資源循環	廃棄物の削減、リサイクルの推進、容器包装の軽量化、グリーン購入の推進、水の有効利用(中水、雨水)、節水の推進			
3. 環境パートナーシップを育みます。 セントレアは、社会から愛される空港であるためには、自らの取組を継続的に発信するとともに、お客様、地域の皆様などとのコミュニケーションが重要との認識のもと、環境パートナーシップを育みます。	情報発信	ホームページによる騒音監視データ、環境報告書等による情報発信		
	空港内・地域とのパートナーシップ	事業者相互のアクション	メンバー同士のコラボレーション、共同イベントの開催、案内ボランティアとの連携	
		社会貢献活動	クリーンアップ活動によるプラスチックゴミの海域流出の歯止め、サステナブル研究所への参加	
		環境への取組紹介	環境関係見学の受入、情報コーナーの充実	
		お客様参加型環境活動	エコ教室の開催、カーボンオフセットの推進(オフセット付きツアー等)	
行政とのパートナーシップ	環境啓発イベント等への協力、環境法令説明会の場の提供、環境学習施設(AELネット)への加盟			
他空港等とのパートナーシップ	EAAA(東アジア空港同盟)等への参画、姉妹提携空港(ミュンヘン空港)との連携、国内主要空港との情報共有			
4. 環境リスクを予防・低減します。 法令を遵守し、リスクの予防・低減に努めます。	環境法令の遵守	環境法令講習会等の開催、燃料漏洩事故の防止、水銀由来製品の削減、フロン利用機器の低減		



燃料電池(FC)バス



リサイクルセンター



天然ガスステーション

※1 ショートプッシュバック方式
 出発時に航空機を予め定められた位置まで後退させる牽引方法の一つで、通常の牽引完了位置より牽引距離を短くした方式。
 ※2 地上動力装置(GPU)
 Ground Power Unitの略。駐機中の航空機が補助動力装置(APU)により電気や冷房を賄う代わりに、空港施設からこれらを提供している。
 ※3 GSE車両
 Ground Support Equipmentの略。航空機の運航を支援する特殊車両。
 ※4 RNAV
 (aRea NAVigation 広域航法)
 地上施設からの電波をもとに位置を測位し、計算処理して飛行コース等を柔軟に設定する航法。飛行距離・時間が短縮可能。